

# がんセンターだより

第 23 号

平成22年1月8日 発行

— 発行 —

埼玉県立がんセンター

発行責任者

病院長

布施嘉亮

基本  
理念

“唯惜命”

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、十分な医療情報提供と患者さんの自己決定権を尊重し博愛と奉仕の精神で医療を行います。

## 消化器外科の紹介

消化器外科（旧：腹部外科）は食道から胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸、肛門の消化管と肝臓、胆道、膵臓のがんを担当します。日本人には胃がんが多いことが知られていましたが、食生活、体格の欧米化に伴い、大腸癌が急増しました。国ががん制圧を目指して5大がんを指定しており、胃がん、大腸がん、肝臓がんのうち3つを占めています。このように消化器外科は広い範囲にわたり数多くのがんを担当し、手術件数も多ければスタッフ数も多い、働き頭の大所帯です。平成21年10月現在、常勤9名、非常勤2名、レジデント3名の14名で活動し、2008年度の手術件数は700件を超えました。最近の臓器別年間切除手術症例数は、食道がん60～70例、胃がん180～200例、大腸がん200～220例、肝がん80～100例、胆膵がん40～50例で、これに症状緩和のための姑息手術、他科手術の応援などが加わります（忙しい）。埼玉県内は勿論、全国でもトップクラスの手術件数であり、開院以来のより良い診療への努力が地域の皆様の信頼を得てきた証しと自負し、また励みとしています。同時にがんセンターを支援し育てていただいた地域住民の皆様と地域の病院、診療所の皆様のお陰と厚く御礼申し上げます。



消化器外科  
科長兼部長

坂本 裕彦

さて、がんセンターの使命として消化器外科が目指していることは、質の高い診療と若手外科医の育成、そして次代の標準治療を創り出すためのデータの蓄積です。

臓器担当を分担して、専門性を高めながら、横のつながりでお互いを応援して質を高めあっています。一方、専門馬鹿にならぬよう、全員で全例症例検討を行います。消化器内科、放射線科など関係諸科と協力し、消化器全般のセンスを研ぎ澄ましています。

きつい仕事を嫌い外科を専攻する新卒医師が減る風潮の中で意欲を持ってがんセンターで学び、成長しにやってくる目がキラキラ輝いたレジデント、研修医が我々の宝です。当科のレジデントは初期研修を済ませ、かなりの臨床経験を持ってがんの専門研修に来ている訳ですが、皆様には一緒になって次代を担うがん専門医を育てて頂いていることを有難く存じます。

標準を超えた治療もがんセンターの使命です。そして、標準を超えたものの中から次世代の標準治療が生まれます。それを創り出す枠組みが臨床試験です。進歩が著しい新規抗がん剤による手術成績の改善、過大な手術侵襲の再検討による治療成績の改善など、臨床試験の成果でがん治療は進化しています。各種のがん治療において多くの方々に臨床試験にご参加頂いています。ご協力頂いている皆様にはこの場を借りまして重ねて御礼申し上げます。臨床試験は患者さんに不利益がないように配慮され設計されていますので、今後も医学の、医療の進歩のためにご協力頂けると幸いに存じます。

### 目次

- 消化器外科の紹介..... 1
- 埼玉県立がんセンターの医療安全管理について..... 2
- 病院長への手紙・患者数の状況..... 3
- 外来診療のご案内..... 4

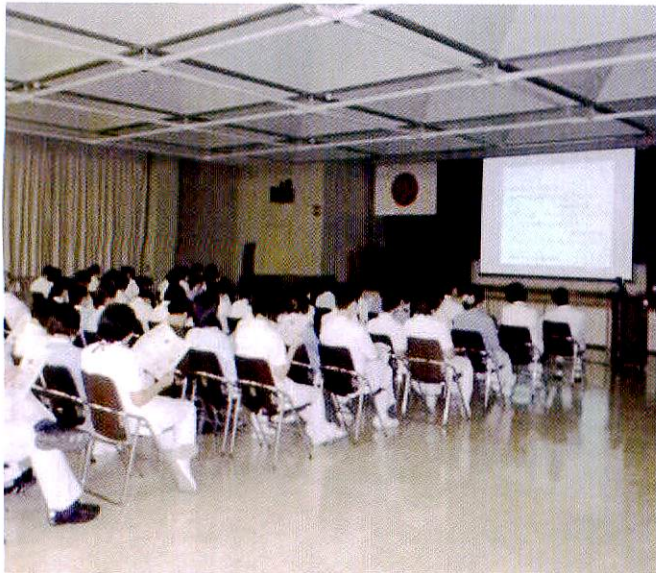


## 埼玉県立がんセンターの医療安全管理について

がんセンターの医療安全管理室は、2005年4月1日より設置され、今年で5年目になります。埼玉県立病院（4病院）では、各施設内に医療安全管理室が設置され、病院内の医療安全管理体制の確立に向けとりにくんでいます。医療安全管理室には、専任の医療安全管理者（専任リスクマネージャー）を置き、病院という組織の中で部門を越えて医療安全を推進する役割を担っています。私は、がんセンター 2代目の専任リスクマネージャーとなり今年2年目になります。医療安全管理室では、医療安全に関する情報収集や実態調査、医療安全に関する教育研修の企画・運営などを行います。専任リスクマネージャーの他、医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務局職員からなるメンバーが医療安全管理室員として役割を担い、医療安全管理室会議（1回/週）を開いています。また各部門の代表が集まり、医療安全管理委員会（1回/月）を開き、安全な医療体制についての対策について検討し、医療安全ラウンドや研修会の開催など行い、職員に向けて医療安全の推進を図っています。その他にも毎年11月に、医療安全の推進として、病院職員が緑のリボンをつけて、病院全体で医療安全推進にむけた取り組みをしています。今年度は、11月全体を医療安全推進月間として、緑のリボンの着用その他、ポスターによる推進運動、職員に向けた講演会を行いました。また年度末には医療安全報告会を行い、各部門の取り組みを報告し、医療安全への意識向上を目指します。



医療安全管理室長付主査  
高橋 陽子



「組織で取り組む医療安全」講演会（2009/11）



医療安全活動報告会（2009/03）



©埼玉県 2005

皆さんは、入院生活で、転倒転落の事故報告が少なくないことをご存知ですか？入院中の転倒・転落は、入院生活での環境の変化や治療・薬剤の影響、また加齢に伴った筋力・体力の低下で、誰にでも起こる可能性があります。また、夜間のトイレへの移動時に転倒してしまうケースが見られます。当センターでは、転倒・転落を早期発見し、重症にならないよう、ベッド柵やセンサーなどの使用により、転倒・転落を予防しています。

入院生活を送る皆様には、脱げやすいスリッパ、裾の長いパジャマなど、十分ご注意くださいようお願いいたします。また必要なときには、職員をお呼びくださるよう、ご協力よろしくお願い致します。



©埼玉県 2005

## 病院長への手紙

当センターでは、患者様やご家族の方々の声を病院の運営に生かすため、「病院長への手紙」という制度を設けております。

患者様やご家族の方々が自由に手紙を投函できるよう、外来ロビーや各病棟にご意見箱を設置しております。また、郵便や電子メールでも受け付けており、いただいたお手紙は定期的に回収し、すべて病院長が目を通しております。

平成20年度は、574通というたくさんのお手紙を頂戴いたしました。いただいたお手紙の内容には、意見、要望等、様々なものがありますが、最も多いものは、医師や看護師へのお礼のこととなっております。職員もいただいたお手紙に励まされ、仕事への大きな活力を得ています。

また、いただいたご意見を生かし、様々な改善を進めております。

例えば、外来でお持ちいただくグリーンケースが持ちにくく、落としやすいとのご意見を受け、再来受付機の脇にグリーンケースを入れるための手提げ袋をご用意するようにいたしました。

また、外来の待ち時間、特に採血室での待ち時間が長いとのご意見を受け、お待ちいただく間の不便さを少しでも解消するため、採血室でも受付番号の表示を行うようにいたしました。デイケアセンターでの化学療法につきましても、調剤待ちの時間が長いとのご意見が多いことから、薬剤師に係る業務分担の見直し等を行いました。

その他、病室内に貴重品を保管する場所が必要とのご意見を受け、セイフティボックス（金庫）を設置致しました。



これらの他にも、多数のお手紙をいただいております。いただきましたご意見やご要望の中には、すぐに実現させることが難しいものもありますが、今後とも皆様の声を生かした病院運営を進めて参りますので、「病院長への手紙」を一層ご活用ください。



医事・経営担当  
主幹

平井 毅

### 患者数の状況

平成20年度の入院・外来患者数が判明しました。

入院患者さんの年間延べ人数は、126,926人で、一日平均入院患者数は348人でした。平均在院日数は15.4日となっています。

外来は延べ185,392人の患者さんが来院されております。うち約6%が初診の患者さんで、その数は年間11,365人となっています。また、一日平均外来患者数は762人でした。

#### 〈入院〉

	20年度総数	前年度増減
入院	8,260	▲66
退院	8,263	▲65
入院延べ患者数	126,926	▲2,637
1日平均患者数	347.7	▲6.3
病床利用率(%)	86.9	▲1.6
平均在院日数	15.4	▲0.2

#### 〈外来〉

	20年度総数	前年度増減
初診患者数	11,365	▲1,200
外来延べ患者数	185,392	▲1,305
1日平均患者数	762.9	0.9
診療日数	243	▲2

## 外来診療 のご案内

平成22年1月1日現在

\* 医師名に**新**の記載があるものは「初診」のみ、**再**は「再診」のみ、記載がないものについては初・再診ともに行っています。

当センターの診療は事前予約制となっています。お電話にてご予約のうえ、来院してください。

埼玉県立がんセンター

総合受付 予約係

☎048-722-1111(代)  
内線 2151 ~ 2153

診療科目	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
血液内科	金子安比古 再 榎木 信男 再 井上 賢一 再	榎木 信男 再 小林 泰文 再 田部井敏夫 再	榎木 信男 再 小林 泰文 再 井上 賢一 再 永井 成勲 再	金子安比古 再 小林 泰文 再 田部井敏夫 再 井上 賢一 再 永井 成勲 再	小林 泰文 再 井上 賢一 再
乳腺腫瘍内科		井上 賢一 再 永井 成勲 再	井上 賢一 再 永井 成勲 再	田部井敏夫 再 井上 賢一 再 永井 成勲 再	井上 賢一 再
呼吸器内科	酒井 洋 再 須藤 淳子 再 豊川 優 再	栗本 太嗣 再 宮永 晃彦 再	酒井 洋 再 栗本 太嗣 再 宮永 晃彦 再 須藤 淳子 再	栗本 太嗣 再 須藤 淳子 再 豊川 優 再	宮永 晃彦 再
消化器内科	多田 正弘 再 山口 研成 再	山口 研成 再	有馬美和子 再 島村 智崇 再 山田 透子 再	多田 正弘 再 島村 智崇 再 石窪 重彦 再 石窪 力 再	島村 智崇 再 石窪 力 再
消化器外科	西村 洋治 再 田中 洋一 再 八岡 利昌 再	西村 洋治 再 坂本 裕彦 再 網倉 克己 再 二宮 理貴 再	田中 洋一 再 網倉 克己 再	川島 吉之 再 八岡 利昌 再 佐藤 弘晃 再	坂本 裕彦 再 川島 吉之 再 山形 幸徳 再
胸部外科	秋山 博彦 再 岡田 大輔 再		岡田 大輔 再		秋山 博彦 再 吉野 直之 再
乳腺外科		武井 寛幸 再 二宮 淳 再 吉田 崇 再 石川 裕子 再	武井 寛幸 再 吉田 崇 再 石川 裕子 再 林 祐二 再		武井 寛幸 再 吉田 崇 再 石川 裕子 再
脳神経外科	楳本 清史 再		早瀬 宣昭 再		楳本 清史 再 早瀬 宣昭 再
婦人科	横田 治重 再 喜納 奈緒 再 久保田和子 再		高橋 道子 再	堀江 弘二 再 荷見よう子 再 久保田和子 再	横田 治重 再 松本 陽子 再
放射線科(治療)	齊藤 吉弘 再 楳本 智子 再	齊藤 吉弘 再	齊藤 吉弘 再 楳本 智子 再	齊藤 吉弘 再 楳本 智子 再	齊藤 吉弘 再
放射線科(診断)					野津 聡 再 中島 哲夫 再
頭頸部外科	白倉 聡 再	西郷 渡 再 野村 文敬 再	西郷 渡 再 清川 佑介 再	白倉 聡 再 清川 佑介 再	
泌尿器科	東 四雄 再 影山 幸雄 再	影山 幸雄 再 井上 雅晴 再		福井 直隆 再	東 四雄 再
整形外科	五木田茶舞 再 関 康弘 再		五木田茶舞 再 関 康弘 再		
形成外科					齋藤 喬 再
皮膚科	石川 雅士 再	石川 雅士 再		石川 雅士 再 鬼澤 沙織 再	石川 雅士 再
麻酔科	内山 睦・多胡 雅夫 再	内山 睦・養田 靖 再		内山 睦・黒沢美美子 再	内山 睦 再
歯科口腔外科		石井 純一 再 八木原一博 再	石井 純一 再 八木原一博 再	石井 純一 再 八木原一博 再 松木 繁男 再	石井 純一 再 八木原一博 再
緩和ケア科		松尾 直樹 再		余宮きのみ 再 松尾 直樹 再 緩和ケアチーム 再	
腫瘍診断・予防科				赤木 究 再	



### 交通のご案内

ニューシャトル丸山駅から徒歩5分  
JR高崎線上尾駅からバスで約15分  
JR宇都宮線蓮田駅からバスで約15分  
※交通事情により異なります。

## 埼玉県立がんセンター

住所 〒362-0806  
埼玉県北足立郡伊奈町小室818  
TEL **048-722-1111**  
FAX 048-722-1129  
URL <http://www.saitama-cc.jp/>

### 診察日

土・日・祝日・年末年始(12月29日から1月3日)を除く毎日。  
※診察科によっては診察をしない曜日があります、ご予約の上ご来院下さい。

### 診察予約

当センターは予約制になっております。  
受診の際はあらかじめ電話によりお申込みください。  
受付時間: 平日 午前8時30分から午後5時まで。  
電話番号: 048-722-1111 総合受付予約係

### 面会時間

平日: 午後3時~午後8時  
土・日・祝日: 午後1時~午後8時